



鋳物企業に技術指導を受けるのを前に、地元製品の魅力に触れたキーホルダー制作班の生徒たち

アルミ缶→キーホルダー SDGs達成へ課題研究

機械科 3年生 校外団体と連携

水沢工高

県立水沢工業高校(日當仁己校長、生徒376人)の機械科3年生6人は、課題研究としてSDGs(エスディージーズ、持続可能な開発目標)に基づき、アルミ缶をリサイ

クルしたキーホルダーの制作に取り組んでいる。鋳物製造企業への訪問や材料のアルミ缶集めなど校外団体と連携しながら12月までに完成させる予定だ。同校3年生は、課題研究としてグループごとにテーマを決め、調査研究した成果を発表する機会がある。6人はSDGsの達成にもつながるアルミ缶製のキーホルダー作りを企画した。

研究を進めるに当たり、SDGsについて理解を深めようと市環境市民会議・奥州めぐみネット(若生和江代表)に講義を依頼。実際の制作では水沢鋳物工業協同組合の企業に

技術指導を受けたり、市内の幼保施設に材料となるアルミ缶の回収をお願いしたりする計画だ。デザインは奥州市版SDGsのロゴを取り入れる予定で、150個ほど作り幼保施設の園児など協力者に配るといふ。

31日、同校で同ネットによるSDGs学習会が行われ、6人は目標の定め方や校外への情報発信の仕方、国連版と奥州市版の違い、具体的な行動などに理解を深めた。カードに書かれた困った状況に陥ったときに手札にある道具や人物などを生かして解決策を考えるゲームも体験し、与えられた条件の中で問題に

取り組む方法を学んだ。同ネットが用意した南部鉄器でパンを焼いて食べる場面もあり、地元産業の魅力にも触れた。キーホルダー制作班リーダーの菊地駿太さん(17)は「SDGsを達成する一つの取り組みからいろんなゴールにつながっていると感じた。完成した作品を見て園児だけでなく保護者の方まで幅広くSDGsについて知ってもらいたい」と意気込む。講師を務めた同ネット事務局・市民環境部生活環境課環境係長の大内守人さんは「思ったよりも視野が広く、どんなものを作るのか楽しみ」と期待する。